（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	安曇野アートラインから『ＡＲ（拡張現実）アート』を発信します‼
事業主体 （連絡先）	安曇野アートライン推進協議会 事務局：安曇野市商工観光スポーツ部観光課
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大（ア 特色ある観光地づくり）、(3)教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	560,549 円（うち支援金：406,000 円）

事 業 内 容

安曇野アートライン推進協議会の各加盟館の所蔵作品や建造物等をモチーフにした AR（Augmented Reality 拡張現実）作品を制作・展示した。

・AR 作品 14 点の制作および展示
・夏休み期間中、安曇野ビンサンチ美術館において小中学生の親子を対象とした AR 作品作りのワークショップを３回開催（参加組数７組 ８作品制作）
・ワークショップで制作された子供たちの作品は、各館の制作作品と一緒に、令和７年 10 月に安曇野市制 20 周年記念事業にあわせて安曇野市美術館（旧豊科近代美術館）で、11 月には池田町の北アルプス展望美術館で展示を実施

【親子ワークショップ】

【目標・ねらい】

①来館者の増加
②観光客の増加
③芸術文化への地域住民（若年層）への啓発。

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

・AR 作品の制作、展示を周知したことで、観光客が単館だけでなく他の館へも巡ることを促すことができたほか、安曇野アートライン展への来場者も増加した。
・地域住民、特に子供に対する芸術文化への理解を深めることにもつながった。
・安曇野市制 20 周年記念事業とあわせて、安曇野美術館等で AR 作品の展示を実施し、地域と一体となって記念事業に取り組むことができた。
・全国的にも珍しい、美術館における AR 作品の展示による、これまでにない視点や角度から、作品の魅力や観光地の魅力をさらに高めることができ、当地域にとってモデル的な観光資源となった。

※自己評価【A】

【理由】
・安曇野アートライン展への入場者数が目標を上回った。
目標 10%増→実績約 14%増
・継続した事業を実施したことで、観光客への周知が高まり、周遊につながった。
・子供の芸術文化への理解を深められた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。（今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など）。

・AR アートを活用した文化振興と共生社会の実現を図っていくため、福祉施設の入所者等による AR の作成も検討していきたい。
・AR 作品は常時展示することができることから、引き続き作品を制作し増加させることで、持続可能で発展的な観光地づくりに取り組んでいきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「Ａ」：予定を上回る効果が得られた　「Ｂ」：予定していた効果が得られた
「Ｃ」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある